

ておらず、すっかり忘れ去られていました。こっちはつて文晁に頼んだ名画のはずなのに。

◇ ◇

たった一冊の調査報告書ですが、これが以後の「定説」となり、「昔からそう



【写真2】渡辺又蔵模写「先聖半身御像」(孔子半身像)



【写真3】谷文晁模写「顔淵像」

伝わっている」として、再々調査の切っ掛けを失う大きな要因となりました。実は、平成19年に全国藩

致道博物館で開催しています。この時、二人の肖像画が入れ替わっていることが指摘されています。しかし、決め手に欠くということで、「入れ替わっている可能性がある」という指摘に留ま

りました。この度の特別展の開催にあたり、固定観念を捨て、新たな気持ちで調査を行い、次の考をもつて前回の結論に至りました。

拡散希望!! 新たな事実

庄内から発見された「名画の孔子像なるもの」は、湯島聖堂の林大学頭の鑑定により孔子像と判明し、表具が新しく整えられました【写真1】。苦勞して仕上げた孔子像が注目を集めたことは明らかで、致道館が開校していた約70年の間、春と秋の積奠でお目見えしたことに間違いはありません。

【写真1】だけが「聖像」として紹介されています。まだこの当時は往年の致道館を知る古者がいたので、正しい情報を知り得たはずですが、何といたっても記録がありません。その後、さらに時は過ぎ、致道館が国指定史跡として昭和40年代に再整備が行われます。再調査も実施され、「史跡旧致道館 致道館記並びに工事報告書」(昭和45年、鶴

谷文晁模写の顔淵像【写真3】は、存在すら紹介され

校サミットが鶴岡を会場に行われ、協賛した展覧会を

致道博物館で開催しています。この時、二人の肖像画が入れ替わっていることが指摘されています。しかし、決め手に欠くということで、「入れ替わっている可能性がある」という指摘に留ま

ました。この度の特別展の開催にあたり、固定観念を捨て、新たな気持ちで調査を行い、次の考をもつて前回の結論に至りました。

①黒崎連「聖師像御写来歴之記」にある記載内容
②書幅の収納箱と、忠徳所用品収納箱の仕様と経年による変化
③箱書き(孔子半身像の箱には、孔子像を不す「聖像」との記載があります)
④WEB画像の各種孔子像・顔淵像との比較
3つの像を比べると、「立ちお顔が似ている」「立ち

これからは間違われないうように。皆さま、事実の拡散、お願いします!(致道博物館主任学芸員・佐藤淳)



酒井家庄内入部400年

まだこの当時は往年の致道館を知る古者がいたので、正しい情報を知り得たはずですが、何といたっても記録がありません。その後、さらに時は過ぎ、致道館が国指定史跡として昭和40年代に再整備が行われます。再調査も実施され、「史跡旧致道館 致道館記並びに工事報告書」(昭和45年、鶴



【写真1】山形県指定有形文化財 絹本着色聖賢画像(孔子聖像)